

東北区水産研究所が取り組む さけます類に関する業務

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平澤, 勝秋 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009738

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 4.0 International License.



東北区水産研究所が取り組む さけます類に関する業務

ひらさわ かつあき
平澤 勝秋 (東北区水産研究所 業務推進部(調査普及課))

はじめに

平成 18 年 4 月、水産総合研究センターとさけ・ます資源管理センターが統合し、本州太平洋域(青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県)でのさけます類の研究開発に係わる調査及び技術普及・体制等の強化を目的に、岩手県宮古市の水産総合研究センター宮古栽培漁業センター内にさけます類を担当する部門として「東北区水産研究所 業務推進部 調査普及課」が設置されました。当課が行う主な業務内容は次の通りです。

増殖技術の普及

さけます類の資源を維持し、その持続的利用を図るため、各県内の担当者及び各ふ化場に効率的、効果的な増殖技術の普及を行っています。

現在は生物モニタリング調査と並行して捕獲採卵、種卵管理の技術普及を行いながら、現地回りをしていますが、良質卵確保のための親魚の扱い、無接水卵・受精直後卵の運搬、吸水卵の収容方法など、それぞれの環境条件に合った方法でふ化放流を実施するための基礎的な技術普及の重要性を改めて痛感しています。

技術講習会の開催

ふ化放流技術者の養成や技術向上を図るため、各県において技術者等を対象に講習会を開催しています。

太平洋域では 4 回を計画し、今年度については捕獲採卵、種卵管理を主題として実技講習会を含めて開催しています。青森県では 8 月 28 日に青森市、岩手県では 9 月 21 日に宮古市、10 月 11 日に北上市、福島県では 10 月 25 日に大熊町で開催し、合計 163 名が受講しました。なお、宮城県についても開催を計画中です。

講習会の終了後のアンケート結果には「月に 1 回は技術普及に来て欲しい」、「実技講習会を年 2 回開催して欲しい」、「参加者全員の実技を望む」などの回答も多くあり、今後可能な限り要望に応えられる内容にして行きたいと考えています。

生物モニタリング調査

ふ化放流及び来遊資源の評価のための基礎資料とするため、ふ化放流データの収集、幼稚魚沿岸分布調査、沿岸漁獲・河川捕獲採卵データの収集、年齢組成・繁殖形質調査等を実施しています。

年齢組成調査は 11 河川(青森 4、岩手 4、宮城 2、福島 1 河川)について実施し、旬に 1 回の割



図1. 調査普及課が設置された宮古栽培漁業センター。



図2. 増殖技術の普及と技術講習会。写真(上)は青森県奥入瀬川の採卵場で行った技術普及、(下)は岩手県和賀川淡水漁協の「和賀川ふれあいやな場」を会場とした技術講習会。

合で、河川回帰した親魚の体長、体重を測定し、鱗を採取して年齢を査定します。岩手県内の河川には、親魚捕獲が開始される 9 月中旬から 12 月にかけて直接調査に出向いています。事前に連絡して日程調整をしますが、当方の都合で現地には無理を掛けていることもあるかも知れません。ご協力に感謝いたします。

また、同じ生物モニタリング調査の一環であり、河川毎の個体群の特性を把握する繁殖形質調査は、平成 18 年度の計画 7 河川全てを終了し、現在は資料整理中です。

繁殖形質の調査河川への往復移動距離は宮城県で 700 km、青森県で 750 km、福島県になると 850 km にもなります。調査機材を後部座席に積み込んでのキャラバンは結構身体に应付るので、エコノミークラス症候群対策としてルーフキャリアを購入する予定です。

耳石温度標識放流調査

さけますセンター及び岩手県と共同し、釜石市唐丹町漁協の片岸川ふ化場から放流するサケ稚魚に耳石温度標識を施すとともに、沿岸域で採集した稚魚の耳石標識等を分析します。

平成 18 年度は 5,000 千尾のサケ稚魚を標識放流する計画であり、発眼卵期に標識処理を順次実施しています。平成 19 年春期には、その耳石温度標識放流魚を追跡すべく、片岸川が流入する唐丹湾から野田湾にかけて行われる岩手県の沿岸幼稚魚調査に同行を予定しています。

おわりに

各ふ化場の担当者においては、さけますふ化放流事業に対して大いに熱意を感じます。しかし一方で、さけ・ます資源管理センター時代からの助言や指摘事項が再度繰り返されている状況があるのも実情です。

サケ資源量の格差と同様に地域によって技術普及に対する受け止め方に違いがありますが、資源の安定的な造成を目指し、調査普及課職員一丸となって基礎的な調査と技術普及業務を推進しますので、今後ともに関係各機関のご協力をお願いいたします。

調査普及課連絡先

電話 0193-71-1155 Fax 0193-64-0134



図3. 生物モニタリング調査。魚体測定と鱗採取（左上）、鱗標本の処理（右上）、繁殖形質調査（下）。



図4. 片岸川ふ化場に設置している耳石温度標識装置。ふ化槽に流れるふ化用水温を定期的に上下させることによって、槽内に収容している発眼卵の耳石に標識となる輪紋が形成される。



図5. 平成18年の春期に唐丹湾で実施した幼稚魚採集調査。